


ニュース詳細

 被災地生徒 ケネディ大使と面会

12月13日 23時41分



日米の企業などの支援でアメリカに留学した東日本大震災の被災地の高校生らがアメリカのケネディ駐日大使と面会し、ケネディ大使は「海外のさまざまな人たちと交流を深めることが大事だ」と激励しました。

東京都内のアメリカ大使公邸に招かれたのは、岩手県や宮城県、福島県の高校生や大学生11人で、アメリカ政府と日米の企業による「トモダチ」と名付けられたアメリカへの留学プログラムに参加し、語学などを学びました。

高校生らはケネディ駐日大使に、英語で、留学を通じて自分に自信がついたことや将来、外交官になって日本とアメリカをつなぐかけ橋になる夢を持ったことなどを話していました。

ケネディ大使は先月、みずから被災地を訪れたことに触れて、「実際に話を聞いたことが大きな

経験になりました」と述べました。

そして「さまざまな人たちとコミュニケーションを交わすことが大事です」と述べて、日米の若い世代による交流を深めてほしいと激励しました。

去年の夏、アメリカに3週間留学した福島県立平商業高校2年の白岩春奈さんは「自分の意見を言うのが苦手だったが、アメリカでの滞在を通じて強い意思を持つことが大事だと学んだ。アメリカでリーダーシップや地域貢献についても学んだので被災地のために何ができるのか考えていきたい」と話していました。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20131213/k10013824381000.html>